

機関番号：32689

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008～2010

課題番号：20520482

研究課題名 (和文) テーマから引ける「留学生のための経済の専門語学習辞典」の作成

研究課題名 (英文) Creation of a “Learning Dictionary of Economics Terminology for Overseas Students” divided into themes

研究代表者

小宮 千鶴子 (KOMIYA CHIZUKO)

早稲田大学・日本語教育研究科・教授

研究者番号：40225579

研究成果の概要 (和文)：

日本の大学で経済分野を専攻する留学生と他分野専攻で日本企業への就職を希望する留学生とを対象に、それぞれの目的に応じた経済の、学術用語またはニュース用語をテーマから選んで学べる学習辞典を学習サイトとして開発した。本サイトには、用語の意味・使い方(連語)・例文が示されている。意味と使い方には、英訳・中国語訳・韓国語訳があり、用語・使い方・例文にはすべて音声が付き、例文ではディクテーションの練習もできる。

研究成果の概要 (英文)：

I have developed a site for learning based on a dictionary of academic and news terms in economics divided into themes. The dictionary is aimed at overseas students majoring in economics at Japanese universities, as well as those from other majors who seek employment in Japanese companies, in line with their different objectives. The site includes meanings and usage (collocation) of terminology, as well as example sentences of actual collocation. Meanings and usage are translated into English, Chinese and Korean, while all terms, usage and example sentences are accompanied by voice recordings and the example sentences may also be used for dictation practice.

交付決定額

(金額単位：円)

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|------|-----------|---------|-----------|
| 20年度 | 800,000 | 240,000 | 1,040,000 |
| 21年度 | 1,400,000 | 420,000 | 1,820,000 |
| 22年度 | 900,000 | 270,000 | 1,170,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 3,100,000 | 930,000 | 4,030,000 |

研究分野：日本語教育

科研費の分科・細目：言語学・日本語教育

キーワード：経済 留学生 専門教育 就職 専門用語 連語 学習辞典 学習サイト

1. 研究の背景

玉村文郎は『語彙の研究と教育(下)』(大蔵省印刷局, 1985)において、大学での学習・研究を想定すれば中級段階から文系・理系に分かれた専門語彙の教育を開始する必要があると述べている。しかし、専門用語は中学公民教科書にある「株主」「公定歩合」など

さえ旧日本語能力試験の1級の語彙には含まれず、現在の日本語教育ではほとんど指導されていない。その結果、留学生は大学進学後に日本人学生が高校卒業までに学ぶ基本用語と大学レベルの専門用語とを同時に学習しなければならないという困難な状況に置かれている。

大学入学後の留学生の専門用語学習の負担は、初年時が最も大きいため、その軽減には大学入学前に高校までの基本用語をできるだけ多く習得しておくことが望ましい。基本用語は、留学生も母国で既に概念を学んでいる語が多く、大学入学前の日本語学習と並行して学習することも可能と思われる。

本研究の目ざすテーマ別専門用語辞典は少ないが、『ジャンル別トレンド日米表現辞典第4版』（小学館、2007）は日本人向けの代表例で、財政、金融など経済関係の分野を含む31のジャンルの用語が示されている。

2. 研究の目的

本研究は、2007年の研究計画の申請時においては、大学の学部等において経済分野を専攻予定の留学生が大学入学前から日本語学習と並行して経済の基本用語をテーマから選択して学習できるようCD版の経済用語学習辞典を作成することを目的とした。

しかし、本研究を開始した2008年には、2007年度より実施され始めた「アジア人財資金構想」（経済産業省・文部科学省）による留学生の日本企業への就職支援プログラムが本格化したため、本研究の目的にも就職支援としての経済用語の学習を追加することにした。

その結果、専門教育支援と就職支援という異なる目的の学習者がそれぞれの目的に適した経済の基本用語をテーマから選んで学ぶ辞書作りを行うことになったため、内容の複雑さと対象の学習者の増加に対応できるように学習辞典の形態を当初のCD版辞書から学習サイトへと変更することにした。

3. 研究の方法

役立つ学習サイトの作成には、学習者による評価が不可欠なので、本研究では、学習サイトの作成、公開、評価、修正までを含めて行うことにした。

(1) 学習サイトのコンテンツの作成

コンテンツは、経済の基本用語、基本用語の使い方を示す専門連語（後述）、専門連語の例文の3種に大別される。

基本用語と専門連語は、調査に基づいて選定し、そのデータを基にサイトに載せる見出し語を決定、翻訳、録音した。専門連語の例文は、資料などを基に作成、録音した。

①基本用語に関するコンテンツ

①-1 基本用語の選定

データとしての経済の基本用語は、中学と高校の公民科3科目の教科書索引を資料に選定した。

資料は、2006年度使用の中学「公民」8種、2005年度使用の高校「現代社会」16種、2008年度の高校「政治経済」16種の教科書索引で、いずれも調査年度に発行された教科書の全

てである。科目ごとに索引間の重複関係を調査し、いずれか1科目の4分の1以上の索引に掲載された用語を基本用語のデータとした。

①-2 基本用語の見出し語の決定

①-1で得た基本用語のデータは、40種の教科書索引から選定したため、「税金」「租税」のような類義語や「国内総生産」「GDP」のような正式な用語と略語、「第3次産業」「第三次産業」のように表記の一部が異なる用語などさまざまな用語が存在する。そこで、類義語や異表記の語をまとめ、サイトに載せる基本用語の見出し語を決定した。見出し語の決定は、大学における経済分野の専門教育の観点から行い、専門用語辞典や専門家の助言を参考にした。

①-3 学習目的とテーマによる見出し語の分類と分類名の決定

筆者と経済の専門家が協力して行った。分類については、経済の専門家に次の条件を提示した。

- a) 大学の留学生を対象とするため、テーマ分類は経済関係の各分野を念頭において行う。
- b) 大学入学前からの学習を可能にするため、テーマ名はできるだけ一般的なものにする。
- c) 分類の柔軟性を確保するため、同一の基本用語の見出し語が複数のテーマに属することを認める。
- d) 専門教育支援と就職支援のそれぞれに適した基本用語の見出し語とテーマを示す。具体的には、次の手順で基本用語の見出し語のテーマ分類を行った。

ア) 筆者が高校公民科教科書の目次に準拠した『現代社会用語集』『政治・経済用語集』（いずれも山川出版社）を基に基本用語の見出し語のテーマ分類の原案を作成した。

イ) 筆者が基本用語の見出し語のテーマ分類の4条件（上述）を決定した。

ウ) 筆者がア)イ)を経済の専門家に提示し、基本用語の見出し語のテーマ分類を依頼した。

エ) 経済の専門家が基本用語の見出し語のテーマ分類を行った。

オ) 目的別の見出し語のグループ名は経済の専門家が決定し、それぞれのテーマ名は経済の専門家と筆者が協議して決めた。

①-4 基本用語の英訳・中国語訳・韓国語訳

一旦は翻訳の専門会社に依頼したが、翻訳の結果に問題が多かったため、経済の専門家に翻訳を依頼した。中国語訳と韓国語訳は経済専攻の中国人と韓国人の博士課程の留学生に、英訳は経済の日本人大学教員に、それぞれ依頼した。

①-5 基本用語の見出し語のアクセント調査

アクセント調査は、録音とアクセント表示

のために行った。アクセント表示は、アクセントの意識的な習得のために用意した。

基本用語の見出し語のアクセントは、アクセント辞典に掲載されている場合はその記述に従い、アクセント辞典に掲載されていない場合はインターネットの動画などへの調査を基に決定した。アクセント調査は、音声教育を専門とする博士課程の学生が中心となって行った。

①-6 基本用語の見出し語の録音

録音は、アクセント調査を主導した音声教育を専門とする博士課程の学生に依頼した。

② 専門連語に関するコンテンツ

専門連語とは、「物価が上がる」「物価が高い」のように、専門用語とは別個に連語として専門的な概念を表す連語で、専門用語の使い方を示すものである。それに対し、「物価を考える」は、専門用語を含んだ連語だが、連語としては専門的概念を表わさず、専門用語の使い方として提示する必要のない非専門連語である。

②-1 専門連語の選定

データとしての専門連語は、中学と高校の公民科2科目の教科書索引と教科書本文を用いて連語を取り出し、経済の専門家の判定を加えて選定した。

資料には、2006年度使用の中学「公民」8種、2005年度使用の高校「現代社会」16種を用いた。いずれか1科目の半数以上の教科書索引に掲載された226語（前述の基本用語の一部）について、教科書本文を資料に連語を収集・整理し、一定の条件を満たした専門連語候補に対して経済の専門家3名による判定を加えて、3名がともに専門連語と判定したものを専門連語とした。

②-2 専門連語の見出しの決定

②-1で得た専門連語のデータは、95語の基本用語に関する連語だが、類義語の「好況」と「好景気」の専門連語が別の専門連語として存在するなどの問題があった。そこで、基本用語の見出し語と同様に「好況（景気）」などとまとめ、その専門連語もまとめた。

専門連語の表記は、「価格を引き下げる／引きさげる／ひきさげる」のように異表記の語が交じる場合があるので、非漢字圏の学習者の漢字学習にも配慮し、常用漢字による漢字表記という方針で表記をまとめた。

②-3 専門連語の見出しの配列法の決定

専門連語の中には、「企業」「価格」など専門連語数が30種以上に上る用語もあり、その配列法が問題になった。そこで、連語の品詞性によって動詞の連語・名詞の連語・形容詞の専門連語という順に配列した後、それぞれの中は意味によって緩やかに配列した。

②-4 専門連語の英訳、中国語訳、韓国語訳

専門連語の翻訳は、基本用語の翻訳と同じ経済の専門家3名に依頼した。

②-5 専門連語の録音

専門連語の録音は、基本用語の見出し語の録音と同じく、音声教育の専門家に依頼した。

③ 専門連語の例文に関するコンテンツ

専門連語の例文は、専門連語の得られた基本用語の見出し語にのみ付けられている。例文は文中での専門連語の使い方を示すもので、学習者がある程度の内容のあることを聞いたり言ったりしているうちに覚えられるように、長さは35字以内とした。

③-1 例文の作成

専門連語の例文は、日本語教師と経済の専門家が協力して作成した。日本語教師が中上級レベルの日本語で高校卒業レベルの内容の例文案を「公民」「現代社会」の教科書本文からの用例文の一部を用いたり、用例が使えない場合は新たに作成した。その後、経済の専門家が例文案の内容を監修し、問題が見つかった場合は、さらに例文案の修正と監修を繰り返した。

③-2 専門連語の例文の録音

基本用語の見出し語の録音と同じく、音声教育の専門家に録音を依頼した。

(2) 学習サイトの作成

作成したコンテンツを組み込んで学習サイトを作成する作業は、日本語教育関係のサイト作成を専門とする業者に依頼した。

筆者の作成したい学習サイトのイメージを業者に伝え、それに基づいて業者が提案するサイト案に関してコメントするという作業を繰り返しながら、サイトが少しずつ作成された。

(3) 学習者による学習サイトの評価

学習サイト「経済のにほんご」は、平成22年10月10日に公開されたが、直後に基本用語の見出し語の翻訳に誤りが発見されたため、その修正の終了後の平成22年12月から平成23年1月まで中上級日本語学習者を対象に、学習サイトの評価をアンケート調査とインタビュー調査によって行った。

アンケート調査の協力者は6名で、そのうちの5名にはインタビュー調査にも協力してもらった。アンケート調査の協力者の内訳は、漢字系2名と非漢字系4名で、インタビュー調査の協力者は、漢字系1名と非漢字系4名である。

アンケート調査の問題数は全体で27問で、選択式25問と記述式2問から成る。問題の内容は、基本用語のレベルと数の妥当性、基本用語の目的別表示とテーマ別選択法、基本用語の読み方・アクセント表示・音声・翻訳、専門連語の存在価値・読み方がないこと・数・配列法・翻訳がないこと、例文の存在価値・長さ・内容・翻訳がないこと、基本用語と専門連語と例文の音声については選択式、サイトの使用法と改善方法については記述式でそれぞれ回答を求めた。

協力者にはアンケートの問題用紙をメールで送り、回答を記入して返送してもらった。

インタビュー調査は、半構造化インタビューで、協力者に日本語学習歴を聞いた後、アンケート調査の回答について話してもらった。所要時間は1人あたり33分～1時間26分で、筆者の研究室で平成23年1月に行った。

(4) 学習サイトの修正

学習者へのアンケート調査とインタビュー調査によって明らかになった学習サイトの問題点について、対処法を検討し、学習サイトの修正を行った。

4. 研究成果

(1) コンテンツの作成

学習サイト「経済のほんご」に載せることが決まった経済の基本用語は、平成18年度使用の中学「公民」の教科書索引8種、平成17年度使用の高校「現代社会」の教科書索引16種、平成20年度使用の高校「政治経済」教科書索引16種のいずれか1科目の25%以上の索引に掲載された基本用語で、類義語や表記の整理を行った後、606語となった。

その内訳は、いずれか1科目の半数以上の索引に掲載された312語と25%以上50%未満の索引に掲載された294語である。

目的別では、専門教育のための学術用語612語と就職支援のためのニュース用語140語に大別した（重複あり）。

テーマ別では、学術用語612語は、経済学304語、経営学・商学92語、社会問題128語、経済史88語の4領域に、ニュース用語140語は、日本経済の現状63語と世界経済の現状77語の2領域にそれぞれ分けられた。さらに、学術用語は10の大テーマと35の小テーマに、ニュース用語は2つの大テーマと20の小テーマに分類された。

サイトに載せる基本用語の翻訳（英訳・中国語訳・韓国語訳）とアクセント調査、録音は、3の方法で述べたとおりに行った。

専門用語は、調査段階では95語の基本用語が作る1329種の専門用語候補から3名の専門家の判断が一致した656種が専門用語として選定された。その後、サイトに掲載するために、専門用語中の95語の基本用語を「好況（好景気）」などにまとめて91語とし、それに伴って専門用語も636種に整理された。

92語の基本用語が作った専門用語数は、「企業」「価格」「市場」などのように30種以上のものから「円安」「間接税」「技術革新」などのように1種まで幅があった。

同一の基本用語が作る専門用語は、＜動詞との専門用語＞＜名詞との専門用語＞＜形容詞との専門用語＞の順に配列し、それぞれの中は、「景気が悪くなる、～が悪化する、～が後退する、～が低迷する、～が停滞する、

～を刺激する、～を良くする、～が良くなる」のように、意味によって緩やかに配列した。

サイトに載せる専門用語の翻訳と録音は、3の方法で述べたとおりに行った。

(2) 学習者サイトの作成

3で述べたように、専門業者にコンテンツを渡して学習サイトのイメージを伝え、やりとりを重ねながら作成した。

(3) 学習サイトの評価

学習者の評価は、アンケート調査とインタビュー調査によって行った。

アンケート調査の結果は、学習目的やテーマによって基本語を選択して学習できること、専門用語や例文があること、基本用語・用語・例文の音声などに関しては、全般的に評価が高かった。一方、基本用語の数や専門用語に漢字に読み仮名がないことについては、意見が分かれた。学習サイトの利用法については、読解、聴解、レポート作成、話し方の4技能にわたった。学習サイトの改善点については、基本用語の数、翻訳語の数、文字の大きさや色が挙げられた。

インタビュー調査の結果、アンケート調査では分からなかった学習サイトのデザインの問題が明らかになった。基本用語を55の小テーマから選択する際に1つの画面の中で選ぶようにデザインしたことが画面の説明文の不備も加わり、テーマによる用語の選択を難しくしていたのである。学習者からは具体的な改善の提案ももらった。その外、専門用語の漢字に読み仮名を付けるか否かに関して賛否それぞれの理由を聞くこともできた。

(4) 学習サイトの修正

学習する基本用語の選択の問題を軽減するため、サイトを作成した業者に学習者の提案を伝えたが、技術的な難しさがあったため、文字の大きさや書体、画面のレイアウトの一部を修正し、説明文も修正するという方法で対応した。

専門用語の読み仮名についても業者に学習者の対立する意見とその理由を伝えたところ、読み仮名表示を選択すれば読み仮名が付くという新たな解決法を提案してくれたので、それに従った。

上記の修正後、修正前の学習サイトについて改善案を出してくれた日本語学習者1名に修正後のサイトを見てもらったところ、良くなったと評価してくれた。また、修正前のサイトを知らない日本語学習者1名に修正後のサイトについてアンケートし、改善点の選択肢に用語選択をやすくするという項目を入れたが選ばれなかった。

上記のことから、サイトの修正は、適切に行われたと思われる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計2件)

- ①小宮千鶴子、留学生のための経済の専門連語の選定—中学「公民」・高校「現代社会」の教科書を資料に一、早稲田日本語研究、査読有、19、2010、pp.1-12
- ②小宮千鶴子、乗川聡、経済を学ぶ日本語学習者のためのテーマ別基本語、2010 世界日本語教育大会論文集・予稿集、査読有、2010、pp.1390-0~1390-9

〔学会発表〕(計3件)

- ①小宮千鶴子、留学生のための経済の専門連語—「公民」「現代社会」教科書を資料として一、日本語教育方法研究会、2009年3月21日、東京工業大学
- ②小宮千鶴子、学部留学生のための経済の基本語彙、日本語教育学会秋季大会、2009年10月11日、九州大学
- ③小宮千鶴子・角南北斗、日本語学習者のための経済の基本語学習サイトの開発、日本語教育学会秋季大会、2010年10月10日、神戸大学

〔その他〕

「経済のにはほんご」

<http://keizai-nihongo.com/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小宮 千鶴子 (KOMIYA CHIZUKO)
早稲田大学・大学院日本語教育研究科・教授
研究者番号：40225579

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者 なし